



人目は気にせず 自分の気持ちに 素直に…



1. 光で表情が変わるガラスの魅力
2. 笑顔の対談
3. さまざまなタイプのガラスがあります

「思い」を「仕事」に

“夢をかなえる大月仕事人”の第4回目として、大月の自然からのインスピレーションを形にする「ガラス作家」の山崎葉さんに、大月短期大学生がインタビューしました。



やまざき 葉さん

～プロフィール～
ガラス作家 猿橋町藤崎在住
座右の銘：殿抜きしんがりぬみ（最後に後ろから抜いていく様子）
大月のお気に入りの場所：桂川の河川敷

「お仕事とその内容を教えてください。」

ガラス作家です。吹きガラスという技法で、高温で溶けたガラスをフーって吹いてベースを作り、そのベースにエナメル絵付けをし、さらにその絵を窯の中で焼き付けて、完成した作品を展示会で販売しています。自分が見た瞬間、その時を切り取った感覚が伝わる作品ができたらいなと思っています。

「自分の好きなことを仕事に繋げ、続けていく上で、大切なことは何ですか。」

人目を気にしないで、自分の気持ちに素直に、好きなことをすればいいのではないかなと思います。向いていないとか、他の人と比べてしまつて、「もうちょっと上手くできたら」と悩んでいた時期もありました。でも、これは「ふるさと」への郷愁きょうしゅうにも繋がるのかも知れませんが、ふつ

「大月の可能性は何だと思えますか。」

大月の可能性は、やはり「自然が豊か」なところで、それに尽きると思います。一度大月を離れて帰ってきてから、「あー、いいとこだな」と思いました。というのも、都会に比べると、しか存在しないような気持ちになつてきて、すぐに窮屈きゆうくつに感じるので、大月に帰ってきて、自然がいっぱいあって、虫、鳥、動物がいて、植物が思うまま生きていて、その自然の中で「ほっ」と心がのびやかになりました。自然にはサイクルがあつて、そのサイクルの1年を人の一生に例えることができるのかなとも感じています。私も「自然の中の一部なんだな」って思うのです。大月の自然の中になると、自分の感覚とか考えの根本がわかる気がします。悩んでいても解決策が見つけれられるというか、そういうところがいいなと思います。

「最後に、私たち若者に熱いメッセージを。」

先のことをいくら悩んでいても分からないので、でもこうやりたいという像があつたら、頭の片隅に意識をしておいて、とにかくひたすら目の前のことに集中して、向き合っていくことがいいんじゃないかなって思います。

自分らしい人生設計を

実際に仕事で活躍されている方にこのような取材をさせていただく機会はなかなかないので、とても貴重な時間でした。

インタビューを終えた今でも、自分の好きなこと、興味のあることを仕事に繋つなげることはとても難しいことだと思っていますが、人目を気にせず、目の前のことに真摯しんしに取り組むことの大切さを改めて感じることができました。

私たちも、本当にやりたいことを見つけ、自分らしい人生設計を立てていこうと思います。

編集協力
大月短期大学
宮崎滉基さん（左）



実際に仕事の様子を拝見させていただきました

「目標はありますか。」
できれば近いうちに、海外で個展を開きたいなと思っています。フランス、イギリス、ドイツ、チェコとかヨーロッパがいいですね。その時の気持ちがあつたので、続けられているのだと思います。

「今度」と「いつか」は来ないので、思い立った時にやる。若い時には、特にそうかもしれないけれど、「かっこ悪い」とか、「しなきゃ」とか…、でも、絶対にそうしないといけないってことは、意外とそんなにないと思います。迷っている時は、「人目は気にせず、自分がワクワクする方を選ぶ」ことが大切ではないでしょうか。